



Ni skribu! の添削指導例

戦前の作家、北条民雄の随想『断想』の途中の一文のエスペラント訳について、**#KY** さんが【原文】【訳文】を提示し、それを Ni skribu! の講師（**#HM**,**#SZ**,**#YS**）がいろいろコメントしているところです。**#KY** さんもコメントしています。なお、これは一文へのコメントに対してはかなり長い例です。

【原文】 どんな、どん底の人間だつて希望は残つてゐる。

【訳文】 Eĉ homo ĉe fundo tenas sian esperon.

【コメントのやりとり】

#SZ: ここは oni でなく明確に homo としていて、良い。

#YS: 「どんな」は eĉ でも、ia ajn, ajna でも良いと思う。但し、現訳文は何となく舌足らずの感あり。

#YS: 「どん底」は ĉe fundo だけでは意味不明。eĉ homo en la plej profunda mizero で訳し過ぎか。

#SZ: そうですね。よくある言い方としては homo ĉe la fundo de la mizero。

#YS: ĉe la rando de とは言うが、fundo の場合、en la fundo de ではないか。

但し、英語では on the edge of, at the bottom of という。

#YS: 「残っている」を「人＋他動詞」で訳したのは良いと思う。

#HM: エス文だけでは "Eĉ homo en la fundo" がよく分からない。日本語原文を参照して、=> lu ajn homo, eĉ en la plej profunda fundo, tenas sian esperon.

#YS: profunda fundo と続くのが気になります。でもウィキペディア「どん底」のエス版は profunda fundo です。その他、Reta Vortaro (kviet/a の項) を含めグーグルヒットは多いです。なので、profunda fundo がよさそうです。

#KY: 私も profunda fundo は直感的に思いついたのですが、私の検索が十分ではなく使われていないと勘違いしました。検索の方法が場当たりのものを改善したいです。eĉ の位置について検討すればよかった。

#YS: 私の試訳は次の通りです。Ajn homo eĉ en la plej profunda mizero ankoraŭ havas esperon. やはり、何故か直感的に eĉ はこの位置になります。ankoraŭ havas で「残っている」を表現したつもりです。**SZ** さんの teni なら ankoraŭ は特に無くても良いです。結局、同じことを表現するのに、いろいろ違った方法があるということです。

#SZ: tenas は KY さんのもとの案です。で、もとの案は ĉe fundo だけ工夫すればよいでしょう。en la でもよいとおもう。(fundo とはいっていないが、実質それを想像させる)

(以上)